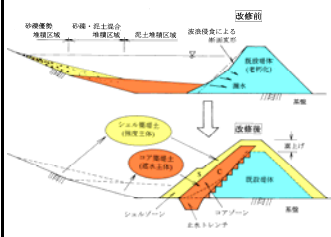
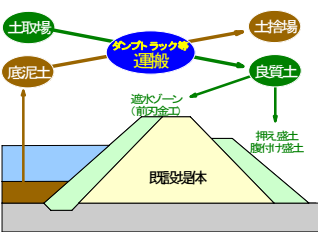


官民連携新技術研究開発事業 新技術概要書

		本概要書作成年月		平成19年10月26日	
1. 新技術名	堆積土・発生土を有効利用したフィルダムのリニューアル技術の開発				
2. 開発会社	株式会社フジタ 太平洋セメント株式会社				
3. 資料請求先	会社名	株式会社フジタ			
	住所	東京都渋谷区千駄ヶ谷4-25-2			
	担当課	土木本部土木技術統括部	担当者	福島 伸二	
	電話	03-3796-2297	FAX	03-3796-2304	
	ホームページ	http://www.fujita.co.jp/			
4. 工種区分	大分類			小分類	
	13. 農業用ダム			1302 フィルダム	
5. 新技術の概要	平成9～11年度の新技術研究開発事業「ため池改修工事の効率化」で開発した「砕・転圧盛土工法」を応用、発展させたものであり、ダム設計基準と整合し、ダム湖内の堆積土や掘削土など、改修事業で発生する様々な粒度の異なる発生土を、各種の固化処理技術により築堤材として有効活用し、堆積土砂の除去と堤体補強を同時に達成するフィルダム堤体改修技術である。				
6. 適用範囲(留意点)	【適用範囲】 農業用フィルダムの漏水防止、耐震補強 【留意点】 ダム湖内の堆積土の調査(分布、粒度)を事前に実施する必要がある。 コア材とする場合には、細粒分含有率$F_c \geq 30\%$となる材料を使用することが望ましい。				

7. 従来技術との比較		新技術	比較する従来技術 (当初の工法・標準案)	比較の根拠
概要図				—
工法名		堆積土・発生土を有効利用した フィルダムのリニューアル技術	標準工法	
経済性(直接工事費)		200,000千円程度/30,000m ³	280,000千円程度/45,000m ³	改修断面が縮小するので施工 数量が減少し経済的となる
工程		300m ³ 程度/日 (固化処理1セットの場合)	580m ³ /日 (21t級ブルドーザの場合)	
品質		従来技術より向上		強度や遮水性のコントロールが 可能
安全性		従来技術と同程度		
施工性		従来技術と同程度		
周辺環境への影響		従来技術より向上		購入土や捨土が必要ない ダンプでの土運搬がない
8. 特許		特願2006-70131 築堤土の製造方法及びフィルダムの堤体改修方法		
9. 実用新案				
10. 実績	農水省			
	その他	県営ダム改修事業(滋賀県〇ダム)の設計で適用を検討中		
11. 備考				